



私はいつも母にいつていたのです。

「お母さんは十の力を全部出して働いてはいけない。六つか、七つか、そのくらいの力を出して働かないと身体にさわる」とよくそういつて止めていたのです。兵隊が来て泊まるのですが、だれも人の子、戦争に行ったら生きて帰って来れるかわからないといつて、自分のこどもが出征するかのようにいる、日夜真心こめて準備に没頭し、い

よいよ泊まると真心こめてもてなす、そういう過労がつつて翌日から病気になり、とうとう五十六歳で亡くなったのです。二人の子供の病気がよくなってすつかり安心してしまい、気の張りがなくなつたところにもつて来て、この過労のため病気になるに亡くなつたものと思うのですが、まことに残念で申し訳なく思います。ずいぶんな親不孝をしたものです。母が亡くなつたときは「軍国の母」とか、「銃後にたおれた婦人」とか新聞に掲載され、大阪毎日新聞などは「中根式速記を創案した中根正親の母」などとも書き



妹 正 兄 父 姉 雄